

農業委員らが水稲作柄調査 ～収穫量推測が目的～

岩沼市農業委員会では、農業委員会法に基づく農業一般に関する調査のひとつとして、「水稲作柄調査」を毎年実施している。今年度は9月4日に実施し、農業委員9名と推進委員5名が参加した。市内10カ所程度の水田を抽出して現場に出向き、稲の生育状況を観察することを通じて収穫量を推測するのが目的だ。

出発前のあいさつで、農業委員会会長の佐藤勲氏は「今年度は猛暑ゆえ作柄が少し心配されるところだ。種類による刈取りの適期を指導できることを念頭に、体調に気を付けて頑張ってもらいたい」などと述べた。

現場を訪れた委員は、稲の穂の長さや粒数などを観察し、記録用紙に記入した。岩沼市農業委員会は2018年2月に改選があったので、今回が初参加の委員も多かった。参加者は口々に「自分の田んぼよりも穂の付き具合が良い」「10アール当たり9俵は行くんじゃないか」などと意見を交換していた。



岩沼市農業委員会事務局の担当者は「水稲の作柄に関する調査は、農林水産省が毎年発表する作況指数などもあるが、現場に行ってみると実際に自分の目で見て、肌で感じる作柄調査は代えがたいもの」と語る。

【記事提供：岩沼市農業委員会】